

聖籠町
1人1台端末の利活用に係る計画

令和7年3月31日

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「児童生徒に学習の展開を自己決定、自己調整をさせていく」という重要単元を抽出し、年間指導計画に重要単元を位置付ける。重要単元の指導にあたって、教師は児童生徒に対して単元ごとの学びの目標を示し、学習方法や学習形態など多様な学び方を保障した授業実践を実践する。1人1台端末を積極的に活用し、複線化の学習を具現化することで、個人で資料を参照したり互いに情報共有したりしながら学べる「個別最適化」と「協働的な学び」が一体化した学習の展開を目指す。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想を受け、本町の町立小中学校においては、LTE端末の導入や無線LAN環境整備が進み、令和2年8月までに完了した。学校全体で一斉に端末を使用すると、アプリの稼働が不安定になることがあったため改善を計画している。

1人1台端末の日常的な活用率は高まっているが、板書やプリント活用が端末活用に置き換わった授業展開も見受けられることから、「令和の日本型学校教育」を意識して、個別最適化の学習と協働的な学習が一体化した学習が展開されるように、教師の指導力を向上させていくことが求められる。本町の1人1台端末は、先進的な取組をしている自治体と比較し制限が強いいため、「デジタル・シティズンシップ教育」を推進し、児童生徒がより積極的に端末を活用しながら、ICTの活用マナーを身に付けていける環境の整備を図る必要がある。また、新潟県版の「児童生徒の情報活用能力体系表」に基づいた児童生徒の技能スキルの一層の向上を図っていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

前項1「1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」の実現のため、端末の整備・更新およびネットワーク環境の強固な帯域確保により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していく。
なお、整備・更新した端末は、以下のような利活用を行う。

項目	KPI	現状値⇒目標値	方策
1人1台端末の積極的活用	毎年度ICT研修を受講する教員の率	全国 : 73.0%(R4) ⇒ 100%(R6) 聖籠町 : 100%(R4) ⇒ 100%(R6)	「デジタル・シティズンシップ教育」の研修の継続 協働的な学習を展開するためのアプリ操作研修
	情報通信技術支援員（ICT支援員）の配置	全国 : 5.7校/人(R3) ⇒ 4校/人(R7) 聖籠町 : 4校/人(R3) ⇒ 4校/人(R7)	ICT支援員配置のための継続的な予算確保・人材確保
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	全国 : 小90.6%(R5) ⇒ 100%(R6) 中86.5%(R5) ⇒ 100%(R6) 聖籠町 : 小100%(R5) ⇒ 100%(R6) 中100%(R5) ⇒ 100%(R6)	情報主任経由での端末操作研修の内容伝達講習 校内の効果的な端末活用事例共有
	デジタル教科書を実践的に活用している学校	全国 : 40.5%(R4) ⇒ 100%(R10) 聖籠町 : 50%(R4) ⇒ 100%(R10)	Wi-Fi環境の整備による帯域確保 デジタル教科書の効果的活用事例の共有
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校	全国 : 小44.9%(R5) ⇒ 80%(R8) 中36.1%(R5) ⇒ 80%(R8) 聖籠町 : 小0%(R5) ⇒ 100%(R8) 中0%(R5) ⇒ 100%(R8)	教科指導担当の指導主事とICT担当の指導主事が連携して町内の教職員に対して「複線型授業実践」のイメージを伝達し、協働的な学びを促進するアプリ活用の具体的な実践事例を共有する。端末操作に苦手意識のある職員の要請に応じて、協働的な学びを実践するためのアプリ操作研修を行う。
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校	全国 : 小46.0%(R5) ⇒ 80%(R8) 中44.4%(R5) ⇒ 80%(R8) 聖籠町 : 小100%(R5) ⇒ 100%(R8) 中100%(R5) ⇒ 100%(R8)	
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校	全国 : 小40.2%(R5) ⇒ 80%(R8) 中34.1%(R5) ⇒ 80%(R8) 聖籠町 : 小100%(R5) ⇒ 100%(R8) 中100%(R5) ⇒ 100%(R8)	
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校	全国 : 今後把握 ⇒ 100%(R8) 聖籠町 : 0%(R6) ⇒ 100%(R8)	第1期で使用していた端末を教室や特別教室に1台ずつ配備し、常時オンライン授業を配信できるようにする。外国人児童生徒とのコミュニケーションを可能にしたり学習を展開しやすくしたりするアプリの検討と導入を行う。アクセシビリティ対応のアプリの活用に関する操作研修を実施する。
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校	全国 : 今後把握 ⇒ 100%(R8) 聖籠町 : 50%(R6) ⇒ 100%(R8)	
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校	全国 : 今後把握 ⇒ 100%(R8) 聖籠町 : 50%(R6) ⇒ 100%(R8)	